

議 事 の 経 過	
【開催日時】 令和元年6月27日（木） 午前10時00分～11時30分 【場 所】 坂戸市役所303・304会議室 【出席者】 委員15名中13名 【傍聴人数】 0名 【議 事】 （1）坂戸市地域福祉計画（第2期）の進捗状況について （2）坂戸市地域福祉計画（第3期）の策定状況について （3）市民くらし安心カードの回収状況について （4）その他 【配布資料】 資料1…坂戸市地域福祉計画取組一覧 資料2…坂戸市地域福祉計画（第3期）・坂戸市社会福祉協議会地域福祉活動計画（第3期）アンケート調査報告書 資料3…市民くらし安心カードの回収状況 追加資料…地域福祉計画 取組一覧（差し替え）	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
市長	委嘱状交付
事務局	1 開 会
市長	2 挨 拶
事務局	3 副会長の選任
	4 議 事 （1）坂戸市地域福祉計画（第2期）の進捗状況について
事務局	資料1に基づき説明

	(質疑なし)
	(2) 坂戸市地域福祉計画(第3期)の策定状況について
事務局	資料2に基づき説明 (計画期間は5か年計画とすることで委員全員より了承を得た。)
	(質疑なし)
	(3) 市民くらし安心カードの回収状況について
事務局	資料3に基づき説明
委員	くらし安心カードの回収率が47%とのことだが、一人暮らしであるが提出が必要ないと考えている方もいると思われる。回収率が上がるような工夫を検討してほしい。
事務局	民生委員・児童委員と協議し回収率向上に努める。
委員	以前はくらし安心カードの中に担当民生委員の連絡先を記入する欄があったが、今回、様式が変わり、世帯構成員に変更があった場合は直接市へ連絡するような記載になった。今年度は民生委員・児童委員の一斉改選があるため欄を無くしたのか。
事務局	そのとおりである。一斉改選に伴い、委員が変わる地区も多く、前任者に連絡が入るなど引き継ぎがうまくいかないという声が民生委員からあったため、「担当民生委員欄」を「備考」にし、市役所の連絡先を明記した。改選後にカードのあり方も含め改めて検討したい。
委員	以前、福祉に関する課題に直面し、担当の民生委員に伝えようと思い市に民生委員の連絡先を問い合わせたところ、「個人情報」と言われたことがあった。民生委員という立場とはいえ、一個人と同じ扱いという認識で担当民生委員欄を無くしたのかと思ったが、そのような経緯があること

	が分かり安心した。 (4) その他
委員	ボランティアグループの活動紹介ができる場として、社協主催のであいの広場を産業まつりと共同開催した結果、来場者が増えた。しかし、市民生活課が主催している市民活動フェアは来場者が少なく、来場者を増やす工夫を検討している。今回のアンケート結果から「ボランティアに参加したいが市内のボランティアグループや参加方法がわからず参加していない」という人が多いことがわかり、市内のボランティアグループを周知するにあたり行事の開催が重要であると感じたため、市民生活課や社協とも情報共有していただき、協力をお願いしたい。
事務局	担当課に御意見を伝えるとともに、いただいた御意見を参考に計画を策定していく。
委員	大規模災害がいつ発生するかわからないが、回覧板が回る範囲の近所とは最低限助け合える交流を持っていきたい。このようなコミュニティづくりを推進していただきたいと思う。何かあった場合、すぐ救急隊や市職員が来るとは限らないため、近所で助け合えるような環境づくりをお願いしたい。
委員	近所の人の個人情報の取扱いはどうするのか。
委員	まずは 10 軒程度の近所でどういう人が住んでいるか、日中の在宅状況等を知っておく程度で問題ないと思う。そのあと自治会等が支援するとなったときに個人情報が必要となってくると考えられる。
委員	避難行動要支援希望者が地域におり、その人の安否確認協力者がいるものの、実際いざというときに機能するかは分からない。民生委員もいるが、高齢者の増加により負担が大きくなっている中、なり手がいないのが問題となっている。町内で助け合う仕組みができるか疑問である。市職員にも協力してもらおうなどの仕組みづくりが必要と考える。

委員	民生委員のなり手が年々少なくなっており、欠員が出ている地域もある。１２月に改選があるが、どのくらい欠員が出るか心配している。
事務局	一斉改選に向け自治会長や現職の民生委員等に依頼しているところだが、欠員は坂戸市だけでなく全国的な問題となっている。欠員がない市町村があれば、どのように民生委員を依頼しているか調査・研究したい。
委員	個人情報を知る必要があると思うが、知り得た情報を他に漏らさないことが重要と考える。災害のときにどこまで助け合えるか分からないが、助けて欲しい人は個人情報を出し、お互い様の気持ちで助け合うことが必要と考える。 また、計画書や資料（地域福祉計画取組一覧）に支え合いのシステムやイベント等があるが、単に実施し参加人数や件数などの結果を出すことよりも、市民が関心を持ったか、今後の担い手として育ったり知識を得られたりしたか、ということの方が重要だと考える。参加人数の確保などだけでなく、参加したことで得た知識を活用していただく工夫が重要である。
事務局	庁内においても策定会議を行う予定であるため、その際にそのような御意見があったことを伝える。
委員	福祉は支えるものと与えるものであるという考えが強いが、それだけではない。市民みんなが幸せに暮らすためには、それぞれの市民の能力を生かせることは何か考え、交流や連携をすることが大切だと考える。 市民を育て、交流を増やす市民参加型のイベントを増やすことが必要と考える。市で活躍している大学や企業の可能性を生かしたり、寄附金を募ったりするなど工夫できることがあると思う。 一番弱い立場に置かれている障害者はケアが必要である。奈良県にある「たんぽぽの家」では、障害者の才能を生かして絵を描き、企業がその権利を買い取り、収入を得るといった取組がある。そのような市民の能力の生かし方を考えることが必要である。

事務局	今後のスケジュールについて説明
事務局	5 閉 会
	以 上